

(新)カキ礁等による海域浄化機能のモデル化に向けた定量化調査

19百万円(0百万円)

水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室

1. 事業の概要

閉鎖性海域は、主に藻場、干潟、カキ礁、浅海有光床といった浅海域によって構成され、水質浄化機能や高い生物生産機能等を有し生態系にとって極めて重要な場であるが、これら浅海域が有する多様な機能についての定量的な評価が不十分であるために、浅海域を保全・再生する取組が閉鎖性海域の水質改善や生態系の回復にどの程度寄与するかを適切に判断できず、必ずしも十分な取組の実施につながっていない。

このため、浅海域の各構成要素が有する機能を定量的に評価するとともに、それらをシミュレーションに反映して面としての浅海域の機能を評価することで、浅海域の重要性を明らかにし、これらを保全・再生する取組を促進するものである。

2. 事業計画

調査項目	H21d	H22d	H23d
浅海域構成要素が有する機能の検討	■	■	
各構成要素が有する機能の定量的評価	■	■	
データセットの構築		■	■
各構成要素の面的な浄化効果の検証			■

3. 施策の効果

浅海域が有する機能を明らかにすることにより、流域レベルの取組としての里海創生の具体的な効果が明らかとなり、その重要性・有効性についての理解促進が期待される。また、閉鎖性海域中長期ビジョンや次期水質総量規制、海の再生プロジェクト、瀬戸内海の環境保全、有明海・八代海の環境再生等において重点的に実施すべき取組を効果的に抽出することが可能となる。

4. 備考

(1) 検討すべき浅海域が有する機能の検討

5百万円

(2) 各構成要素が有する機能の定量的評価

14百万円

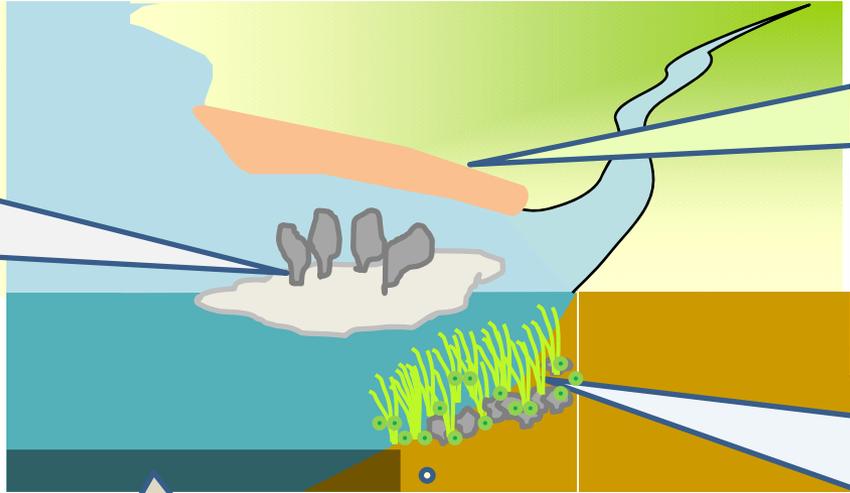
カキ礁等による海域浄化機能のモデル化に向けた定量化調査

浅海域が有する多面的機能は閉鎖性海域の保全に有効だが、その定量的な評価は不十分

カキ礁等が有する機能の検討
機能の定量的評価
データセットの構築
面的な浄化効果の検証

浅海域の重要性・有効性の理解の促進

浅海域の保全再生施策を推進



太陽光が届かない

浅海有光床
海藻や礫等に付着した底生性の微細藻が光合成により酸素を供給